

## リモート授業の忘れ物

言の葉OFFICEかのん代表 川邊 暁美

### ◆コロナ禍で模索、SNSで情報共有

コロナ禍で模索されてきた大学の2020年度の授業が終わろうとしている。筆者もコマ数は多くないが、いくつかの大学に登壇しているため、遠隔授業を行うよう通達された当初はパニックだった。

そんな中、学生の安全そして学習の機会と質を守らなければならない使命感から、所属や専門を超えて、昨年3月末に立ち上がった大学教員たちのSNS(インターネット交流サイト)グループに大いに助けられた。現在は2万人を超えるグループになっており、国内外の大学の動向や学生支援、授業方法など活発な情報共有、問題提起が行われている。

最初は「何を使ってどう授業をすればよいのか」という共通の困惑から始まった。オンライン対応ツールに詳しい教員たちがノウハウを伝授し、それを受けて授業でそのツールを使った教員がその問題点をシェアし、語学の授業には何がどう使えるか、スポーツ系の場合は、実験のある学部での工夫は…など、全く惜しみなく、それぞれの知識と経験を共有してくれた。

### ◆オンラインで集中、学生の理解度向上

オンライン会議システムの授業シーンならではの使い方は、ネットを検索しても得られない。グループの投稿には、この難局を共に乗り越えようとする大学教員の真剣な思いが詰まっていた。

後期からは感染防止対策を徹底した上で、対面授業を再開する大学も増えたが、遠隔と対面のハイブリッド型授業を行う際の課題など、刻々と変化していく大学の現状に寄り添った投稿が今もリアルタイムでアップされている。予測不可能なコロナ禍で日々格闘する大学教員たちのつながりにノウハウだけでなく、気持ちも救われ、20年度を乗り切ることができた。

現在、オンライン会議システムを使った同時双方向型の授業を行っている。リモートであっても顔を見ながら学びの時間を共有できるせいか、学生の意欲は高く、集中力を持って授業に参加している。学生には毎回ミニレポートを提出させ、フィードバックを返すことで授業の理解度を把握してきたが、理解度・定着度は例年より高く、ウェブカメラを見て堂々と意見を述べる様子に、間違いなくIT(情報技術)リテラシーもプレゼンテーション力もこのコロナ禍で向上したことが見て取れる。

### ◆学びを深める大事な部分

学生同士のコミュニケーションが取れないのは心配だったが、グループ分け機能を使った討議演習を重ねるうちに、画面を通して互いの様子・表情を注意深く観察し、誰もが発言しやすいよう自然に配慮しながら話し合うスキルが身につく、当初は消極的だった学生も、積極的な学生と同じように議論に加わるようになっていた。

学びの成果という点では大きな問題はなかったが、一方で何かを置き去りにしてしまった気もしている。教室での授業前後の学生との雑談から近況や関心を知って個々にフォローをしたり、授業の流れでふと、体験談を話すことで人生の先輩としてのメッセージを伝えたりといった、授業項目そのものではないが、学びを深めたり、学びを未来に生かすために大事にしてきた部分が、気が付けば抜け落ちてしまっていた。

ツールを駆使してシラバス(講義の計画)通りに指導するだけが講師ではない。今後の授業形態がどうなるかにかかわらず、学生と向き合い、受け止めながら関わる講師の使命を忘れないよう心したい。コロナ禍でも置き去りにしてはいけないものがある。

(かわべ・あけみ)

◆監修◆ 内外情勢調査会

◆委託編集◆ 時事総合研究所

〒104-8178 東京都中央区銀座5-15-8 TEL: 03-6800-1111(代表)

この記事に関する問い合わせは、時事総研(03-3546-2384)まで

本稿の一切の情報について、無断転載・複写をお断りします。©時事通信社 2003